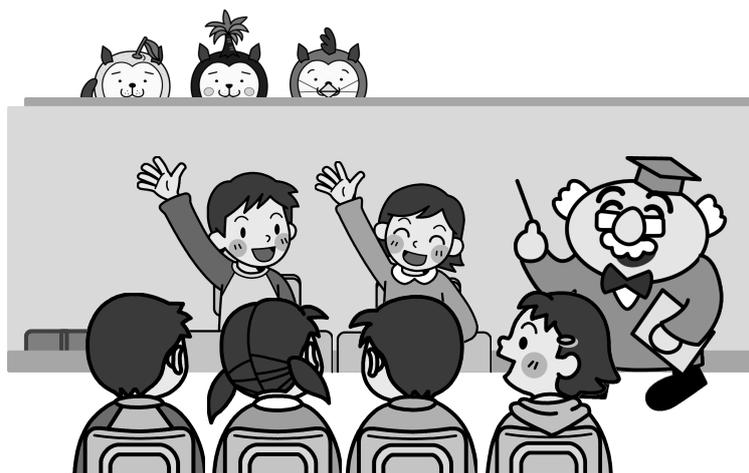


平成29年度 全国学力・学習状況調査 【宮崎県の調査結果】



――目次――

1	結果の概要	p 1
2	小学校国語の結果概要	p 3
3	小学校算数の結果概要	p 4
4	中学校国語の結果概要	p 5
5	中学校数学の結果概要	p 6
6	小学校の具体的な問題例		
	小学校国語	p 7
	小学校算数	p 9
7	中学校の具体的な問題例		
	中学校国語	p 11
	中学校数学	p 13
8	児童生徒の生活習慣に関する概要	p 15

宮崎県教育庁学校政策課
義務教育・学力向上担当

宮崎県の調査結果

【1 結果の概要】

学校政策課

◆ 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
 (3) 上記の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の概要

- 1 調査実施日 平成29年4月18日(火)
 2 対象学年 小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年
 中学校第3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年
 3 調査対象 小学校：235校(市町村立小学校234校、特別支援学校小学部1校)
 中学校：133校(市町村立中学校126校、県立学校3校、特別支援学校中学部4校)

※ 国立・私立学校も参加しているが、示しているのは、県内の公立小・中学校、特別支援学校の結果のみである。

◆ 宮崎県の公立小・中学校の学力調査結果の概要

1 平均正答数

○ 小学校第6学年

年度	教科 〔問題数〕	国語A 〔15問〕	国語B 〔9問〕	算数A 〔15問〕	算数B 〔11問〕	合計 〔50問〕
H29	宮崎	11.4	4.9	11.8	4.8	32.9
	全国	11.2	5.2	11.8	5.1	33.3
	全国との差	+0.2	-0.3	0.0	-0.3	-0.4

○ 中学校第3学年

年度	教科 〔問題数〕	国語A 〔32問〕	国語B 〔9問〕	数学A 〔36問〕	数学B 〔15問〕	合計 〔92問〕
H29	宮崎	24.9	6.4	23.4	7.1	61.8
	全国	24.8	6.5	23.3	7.2	61.8
	全国との差	+0.1	-0.1	+0.1	-0.1	0.0

- A問題：主として「知識」に関する問題
 「身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能」などを中心とした問題
- B問題：主として「活用」に関する問題
 「知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立てて実践し、評価・改善する力」などに関わる内容を中心とした問題

2 平均正答率(都道府県別の平均正答率は、文部科学省が整数値で公表)

○ 小学校第6学年

年度	教科	国語A	国語B	算数A	算数B	合計	合計 100%換算
H29	宮崎	76	55	79	44	254	63.5
	全国	74.8	57.5	78.6	45.9	256.8	64.2

○ 中学校第3学年

年度	教科	国語A	国語B	数学A	数学B	合計	合計 100%換算
H29	宮崎	78	71	65	47	261	65.3
	全国	77.4	72.2	64.6	48.1	262.3	65.6

◆ 宮崎県の結果の概要

本県の学力の状況を「1 平均正答数」の表で見ると、小学校は4つの教科区分(国語A・B、算数A・B)区分のうち、国語Aと算数Aが全国平均以上であり、合計では、0.4ポイント全国平均を下回っている。
中学校は、同じく4つの教科区分のうち、国語Aと数学Aが全国平均を上回っており、合計は、全国平均と同じである。

※ 過年度の調査結果については、「宮崎県教育研修センター」のトップページにある、「調査・研究」の「全国学力・学習状況調査」を参照ください。

※ 調査結果は学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であります。
「平成29年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領」より

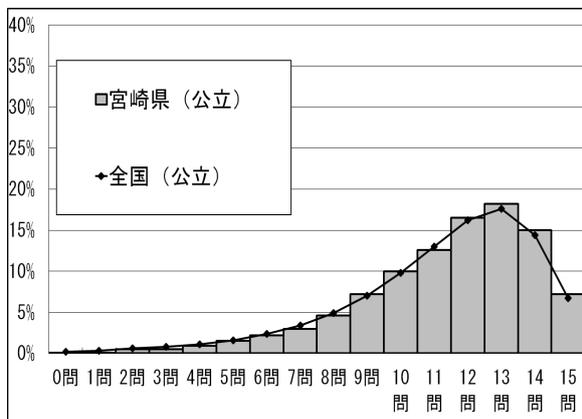
宮崎県の調査結果

【2 小学校国語の結果概要】

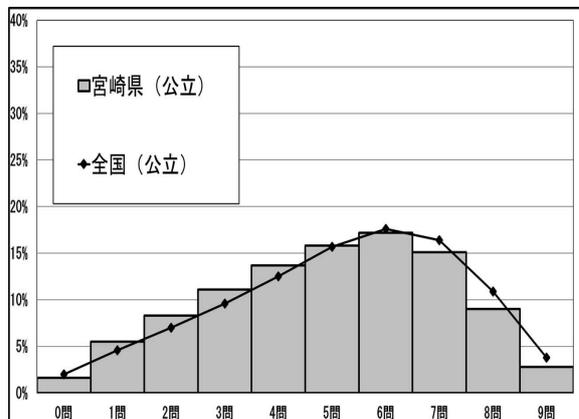
学校政策課

◆ 宮崎県全体の正答数分布状況（公立）

小学校国語A（15問）



小学校国語B（9問）



※棒グラフが宮崎県の正答数分布、折れ線グラフが全国の正答数分布（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）

◆ 学習指導要領の領域・問題形式ごとの平均正答率

※ 太字が宮崎県の平均正答率、（ ）の中は、全国の平均正答率、下段は全国との差

領域	国語A	国語B
話すこと	66.8 (69.2)	63.4 (64.9)
聞くこと	-2.4	-1.5
書くこと	61.8 (60.6)	50.4 (53.4)
	+1.2	-3
読むこと	68.8 (70.2)	46.4 (49.2)
	-1.4	-2.8
言語事項	79.7 (78.0)	
	+1.7	

問題形式	国語A	国語B
選択式	71.0 (71.7)	61.6 (64.6)
	-0.7	-3
短答式	83.6 (79.4)	68.4 (69.2)
	+4.2	-0.8
記述式		39.5 (41.7)
		-2.2

◆ 小学校国語の設問別結果概要（全国平均との比較）

【話すこと・聞くこと】

- （B-1）折り紙のみりょくについて、スピーチメモとグループの話合いで出された意見を基に書く問題（【書くこと】も含む）

【書くこと】

- （A-2）お礼の気持ちを伝えるために、どのような内容を書いているのか、書かれている内容の説明として適切なものを選択する問題
- （B-2）協力を依頼する文章について空欄に当てはまる内容を中学生の「アドバイス」を基に書く問題

【読むこと】

- （B-3）登場人物の相互関係と場面当てはまる描写を考え、空欄に当てはまる言葉として適切なものを選択する問題
- （A-4）グループの話合いを通して見付けた俳句の良さとして適切なものを選択する問題
- （B-3）物語を読んだあとの話合いにおける発言の意図として適切なものを選択する問題

【言語事項】

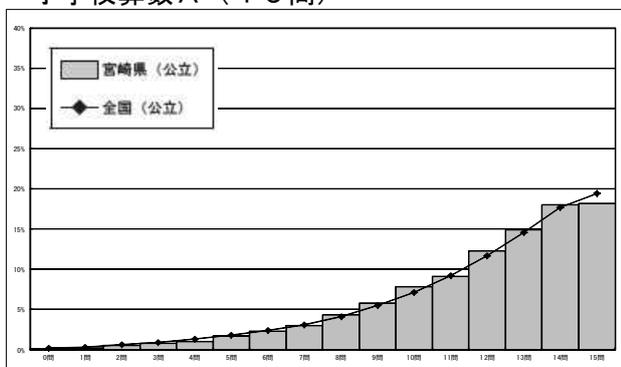
- （A-1）漢字を正しく読む・書く問題

○（A）（B）無解答率が全国平均より低い。

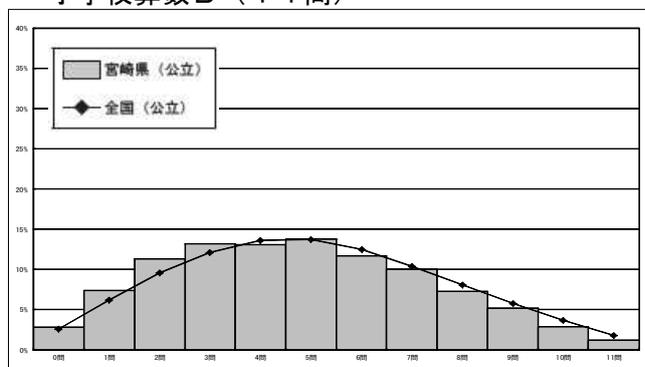
※ ○は全国と比べよくできているもの、●は全国と比べ課題と考えられるもの

◆ 宮崎県全体の正答数分布状況（公立）

小学校算数A（15問）



小学校算数B（11問）



※棒グラフが宮崎県の正答数分布、折れ線グラフが全国の正答数分布（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）

◆ 学習指導要領の領域・問題形式ごとの平均正答率の推計値

※ 太字が宮崎県の平均正答率、（ ）の中は、全国の平均正答率、下段は全国との差

領域	算数A	算数B
数と計算	81.3 (80.6) +0.7	49.7 (52.8) -3.1
量と測定	66.7 (68.8) -2.1	47.3 (47.0) +0.3
図形	84.6 (81.1) +3.5	10.6 (13.2) -2.6
数量関係	79.0 (79.6) -0.6	37.8 (40.0) -2.2

問題形式	算数A	算数B
選択式	77.6 (79.6) -2.0	50.2 (54.1) -3.9
短答式	79.7 (77.8) -1.9	58.9 (61.7) -2.8
記述式		30.3 (31.6) -1.3

◆ 小学校算数の設問別結果概要（全国平均との比較）

【数と計算】

- (A-2 (3)) 加法と情報の混合した整数と小数の計算 ($6+0.5\times 2$) ができる。
- (A-2 (4)) 商を分数で表すこと ($5\div 9$) ができる。
- (A-1 (2)) 1より小さい小数の乗法の問題場面を理解し、数量の関係を数直線に表す。
- (A-2 (2)) 小数と整数の加法 ($10.3+4$) を計算する。
- (B-1 (1)) 示された条件を基に、適切な式を立てる。
- (B-1 (3)) 問題に示された二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述する。
- (B-2 (1)) 料金の差を求めるために、示された資料の中から必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する。

【量と測定】

- (B-3 (2)) 仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求める。
- (A-5) 高さが等しい平行四辺形と三角形について、底辺と面積の関係を理解している。
- (B-3 (1)) 飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める。

【図形】

- (A-6) 正五角形は、五つの合同な二等辺三角形で構成できることを理解している。

【数量関係】

- (A-9 (1)) 資料を二次元表に分類整理できる。
- (B-4 (1)) 示された式の中の数が表す意味を、表と関連付けながら解釈し、記述する。
- (B-4 (2)) 割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶ。

※ ○は全国と比べよくできているもの、●は全国と比べ課題と考えられるもの

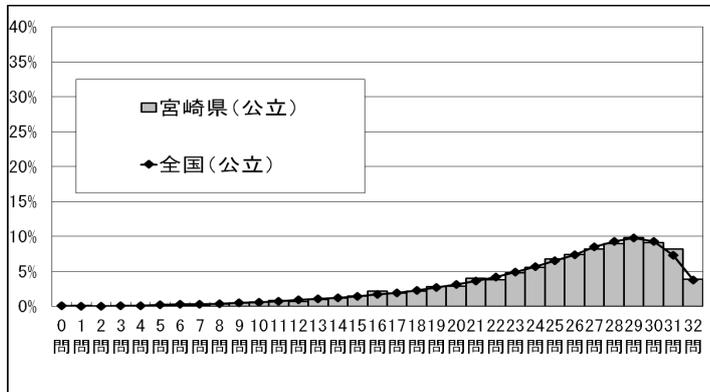
宮崎県の調査結果

【4 中学校国語の結果概要】

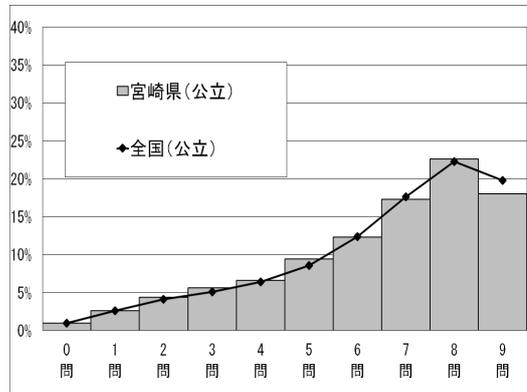
学校政策課

◆ 宮崎県全体の正答数分布状況（公立）

中学校国語A（32問）



中学校国語B（9問）



※ 棒グラフが宮崎県の正答数分布、折れ線グラフが全国の正答数分布（横軸：正答数、縦軸：生徒の割合）

◆ 学習指導要領の領域・問題形式ごとの平均正答率の推計値

※ 太字が宮崎県の平均正答率、()の中は、全国の平均正答率、下段は全国との差

領域	国語A	国語B
話すこと	73.5 (75.4)	71.3 (72.4)
聞くこと	-1.9	-1.1
書くこと	85.3 (85.7)	59.8 (60.8)
	-0.4	-1
読むこと	72.7 (73.8)	71.7 (72.1)
	-1.1	-0.4
言語事項	78.9 (77.2)	41.9 (41.4)
	+1.7	+0.5

問題形式	国語A	国語B
選択式	78.0 (78.5)	77.8 (79.8)
	-0.5	-2
短答式	77.5 (75.1)	84.5 (84.1)
	+2.4	+0.4
記述式		55.5 (55.9)
		-0.4

◆ 中学校国語の設問別結果概要（全国平均との比較）

【話すこと・聞くこと】

- (A-7) 先生から必要な情報をもらうために適した発言に直す問題
- (B-2) スピーチの内容を聞き手からの意見に基づいて直す問題（【書くこと】も含む）

【書くこと】

- (A-3) それまで頑張ってきた様子が読み手により伝わるように書き直す問題
- (B-3) アンケートをとる対象と質問内容、質問についての回答を基にした内容を書き載せることで興味をもってもらえると考えた理由を書く問題

【読むこと】

- (B-1) 地の文にある言葉を発した人物を文章の中から抜き出す問題
- (A-6) 「どれもこれも仁王を表しているものはなかった」の意味として適切なものを選択する問題

【言語事項】

- (A-9) 文脈に即して漢字を正しく読む問題
- (A-9) 「徒然草」の作品の種類として適切なものを選択する問題
- (A-9) 適切な語句を選択する問題（急がば回れ）
- (A-9) 話合いの記録として適切な語句を選択する問題（再検討 保留）

○ (A) (B) 無解答率は全問題を通じて全国平均と同じか低い。

※ ○は全国と比べよくできているもの、●は全国と比べ課題と考えられるもの

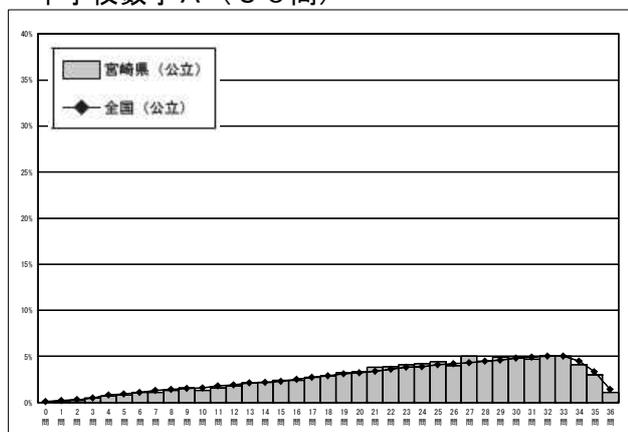
宮崎県の調査結果

【5 中学校数学の結果概要】

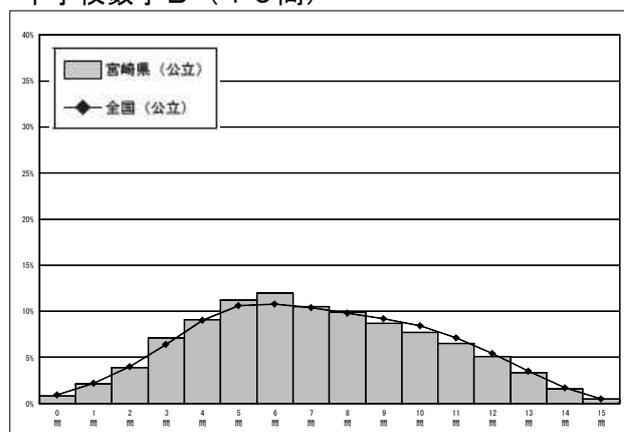
学校政策課

◆ 宮崎県全体の正答数分布状況（公立）

中学校数学A（36問）



中学校数学B（15問）



※ 棒グラフが宮崎県の正答数分布、折れ線グラフが全国の正答数分布（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）

◆ 学習指導要領の領域・問題形式ごとの平均正答率の推計値

※ 太字が宮崎県の平均正答率、（ ）の中は、全国の平均正答率、下段は全国との差

領域	数学A	数学B
数と式	72.4 (70.4) +2.0	47.2 (46.3) +0.9
図形	64.5 (66.0) -1.5	45.6 (47.1) -1.5
関数	57.4 (57.4) ±0	48.1 (50.8) -2.7
資料の活用	59.5 (57.6) +1.9	49.9 (49.1) +0.8

問題形式	数学A	数学B
選択式	64.5 (66.8) -2.3	53.2 (53.8) -0.6
短答式	65.2 (63.4) +1.8	65.4 (66.3) -0.9
記述式		20.8 (21.7) -0.9

◆ 中学校数学の設問別結果概要（全国平均との比較）

【数と式】

- (A-1(3)) 加減乗除を含む正の数と負の数の計算 ($10-6 \div (-2)$) ができる。
- (A-2(4)) 等式 ($x+4y=1$) を目的に応じて変形することができる。
- (A-3(1)) 簡単な一元一次方程式 ($4x=7x+15$) を解くことができる。
- (A-3(2)) 具体的な場面で、一元一次方程式をつくることができる。
- (A-3(4)) 簡単な連立二元一次方程式を解くことができる。

【図形】

- (A-5(1)) 空間における直線と平面の平行について理解している。
- (A-4(1)) 角の二等分線の作図が図形の対称性を基に行われていることを理解している。
- (A-5(4)) 円柱の体積を求めることができる。
- (A-6(1)) 錯角の意味を理解している。
- (B-4(1)) 2角の大きさが等しいことを、三角形の合同を使って証明することができる。

【関数】

- (A-10(3)) 与えられた反比例の表において、比例定数の意味を理解している。
- (A-12) 具体的な事象における2つの数量の変化や対応を、グラフから読み取ることができる。
- (B-3(3)) 数学的な表現を事象に即して解釈し、的確に処理することができる。

【資料の活用】

- (A-14(1)) 範囲の意味を理解している。

※ ○は全国と比べよくできているもの、●は全国と比べ課題と考えられるもの

平成29年度 全国学力・学習状況調査
宮崎県の調査結果
【6 小学校の具体的な問題例】

学校政策課

【小学校国語】

○ 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことができるかどうかを問う問題については良好な結果である。

A問題 ② 「お礼の手紙を書く」

■ 正答

2

	2	正答率	無答率
宮崎		80.4%	0.0%
全国		79.7%	0.1%

● 誤答例 3 17.6%

松本さんが体験を通して感じたことや分かったことの具体的な内容をとらえることができていない。

②

松本さんは、昔の人々の暮らしに興味をもち、学校の近くにある歴史資料館へ行き、その後お世話になった資料館の山村さんにお礼の手紙を書いています。次の「山村さんへの手紙」をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

山村さんへの手紙

緑が美しい季節となりました。先日はお忙しいところ、歴史資料館を案内していただき、ありがとうございました。実際に資料館を見学することで、昔の人々の暮らしについて考えることができました。

特に心に残っているのは、「昔のくらし体験コーナー」です。せんたく板を使ってあらうと、せんたく機だけでは落ちないようなよごれがきれいに落ちたのでびっくりしました。また、よごれを落とすには時間がかかり、うでがいたくなることを実感しました。今は自動でせんたくができて、その間に他の仕事することもできます。でも、昔はせんたく板を使い、長い時間をかけてせんたくをしていたことが、今回の見学を通して分かりました。

昔のくらしのよいところや大変なところを知ることができ、もっと調べてみたいくなりました。これからも、いろいろなことをわたしたちに教えてください。

ウ

ア

イ

一 松本さんは、「山村さんへ手紙」の [] でのようことを書いていますか。その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 見学して興味をもったことについて、本で調べたことを書いています。

2 今と昔の生活のちがいで、体験して気づいたことを書いています。

3 山村さんの話の中で、一番心に残ったことを書いています。

4 見学して新たに疑問に思ったことを書いています。

学習指導に当たって

実用的な文章としての手紙を書く

○ 実生活においては、依頼状や案内状、礼状などの実用的な文章としての手紙を書くことが求められる。その際、目的や意図を明確にして、書く事柄を選び、書きたいことの中心が伝わるように詳しく書いたり簡単に書いたりすることができるように指導することが大切である。また、書いた手紙を互いに読み合い、伝えたいことが適切に相手に伝わるかどうかを考えることができるように指導することも大切である。さらに、相手と自分との関係を意識し、相手や場面に応じて、丁寧語や尊敬語、謙譲語を適切に用いることができるよう、児童の発達段階に合わせて繰り返し指導することが大切である。

また、手紙を書く学習活動を、国語科のみならず、国語科との関連を図りながら各教科等に意図的、計画的に設定することが重要である。例えば、総合的な学習の時間や社会科において、地域での体験学習の指導を依頼する手紙や、運動会などの学校行事に案内をする手紙、社会科見学等でお世話になったことへのお礼の手紙などを書くことが考えられる。

(平成29年度 全国学力・学習状況調査「報告書」より)



「言語活動事例集【小学校版】」にも活動例がありますので、参考にしてください。



指導に当たっては、実際に「手紙を書く」という言語活動を行うことが大切です。

その際、上記の指導内容に加えて、手紙全体の構成や後付けといった、手紙の基本的な形式も押さえることが求められます。

さらに他教科と連携して計画的に繰り返し指導することで、実生活と結びつけた「生きて働く力」となるでしょう。

国語-2 (第1学年) 伝えたいことを簡単な手紙で書く事例

【学習活動の概要】

1 単元名	がんばっていることを手紙で知らせよう
2 単元の目標	お世話になった人に、小学校生活での様子を分かってもらえるように、必要な事柄を集め手紙を書くことができる。
【学習活動】	関心・意欲・態度】 いことを書いた手紙が相手に届く楽しさを感じながら、手紙を書こうとしている。 書く相手に向けて、学校生活の中から伝えたいことを集めたり、その中から自分が伝えたいことを選んだりしている。 自分の名前などを添えて書いている。 【知識・理解・技能】 書かれた文章に慣れ、手紙の文章を敬体で書いている。

教材文 自作のモデル文章教材
学習活動

(言語活動事例集【小学校版】より)

【小学校算数】

● 1より小さい小数をかける乗法の問題場面を理解し、数量の関係を数直線に表すことができるかどうかをみる問題については課題がある。

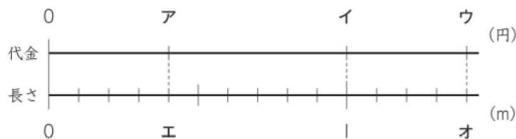
A問題

1 mあたりの値段が60円のリボンを何mか買います。
そのときの代金の求め方を考えます。

(2) リボンを0.4 m買います。このときの代金を□円として、リボンの長さ
と代金の関係を下の図に表します。

「1 mあたりの値段の60」、「買う長さの0.4」、「0.4 m分の代金の□」
のそれぞれの場所は、下の図のどこになりますか。

アからオまでの中から、あてはまるものを1つずつ選んで、その
記号を書きましょう。



A①		正答率	無答率	●誤答例 ①、②、③の順に ・ イ、エ、ウ ・ ア、イ、ウ など
(2)	宮崎	62.5%	1.3%	
	全国	69.9%	1.8%	

■正答

①	60の場所	イ
②	0.4の場所	エ
③	□の場所	ア



【誤答について】
二つの数量関係を適切に捉え、数直線に表されている数量と対応させることができていると考えられる。

【学習指導に当たって】

・ 問題場面を的確に捉え、数量の関係を図や数直線などに表すことができるようにする。

○ 問題場面を的確に捉え、数量の関係を図や数直線などに表すことは、問題を解決する上で大切である。

指導に当たっては、例えば、設問(2)を用いて、問題場面から数量の対応関係や大小関係を数直線上に表したり、数直線上の基準量に当たる1に対応する数量を問題場面から確かめたりする活動が考えられる。

(平成29年度全国学力・学習状況調査 報告書 小学校算数 P27より)

● 小数と整数の加法「(小数) + (整数)」の計算をすることができるかどうかをみる問題については課題がある。

A問題

次の計算をしましょう。

(2) $10.3 + 4$

■正答

14.3

A②		正答率	無答率	●誤答例 ・ 10.7 と解答(14.7%) ・ 50.3 と解答(1.8%) など
(2)	宮崎	74.8%	0.3%	
	全国	79.7%	0.4%	

【誤答について】
位を正しくそろえずに、計算をしていると考えられる。

【学習指導に当たって】

・ 基礎的・基本的な計算技能の確実な定着を図るために、計算の結果の見積りや確かめの習慣を身に付けることができるようにする。
・ 数の仕組みと計算の仕方を関連付けて理解できるようにする。



○ これまでに児童が身に付けてきた計算の技能は、生活場面のみならず、より複雑な計算を行うための基になるものであるため、確実に定着できるように指導することが大切である。

指導に当たっては、日常の事象と関連付けた場面を設定するなどして、計算の結果を見積もること、計算の仕方を既習の内容を基に考えること、計算の結果を振り返って確かめることの各活動を関連付ける場を適宜設定することが考えられる。

○ 整数と小数の混合した計算においては、計算処理だけではなく、数の仕組みを基に計算の仕方を理解できるようにすることが大切である。

指導に当たっては、例えば、整数の計算を振り返りながら小数の計算の仕方を考えることが大切である。整数の計算の際に計算したように、小数の計算の場合にも、一の位、1/10の位、1/100の位と分けて同じように計算することができることを確認することが大切である。

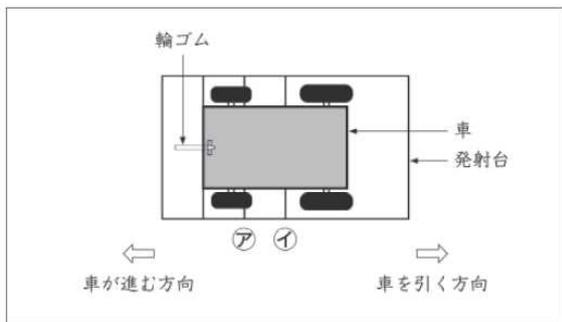
(平成29年度全国学力・学習状況調査 報告書 小学校算数 P33、34より)

● 飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を判断することができるかどうかをみる問題には課題がある。

B問題

かずやさんたちは、ゴムの力で動く車を作りました。

下の図のように車と発射台を輪ゴムでつなぎ、車を引いて輪ゴムをのばしてから放すと、車が進みます。車の先頭が、図の②の位置に来るまで輪ゴムをのばした場合、①の位置に来るまで輪ゴムをのばした場合、どれだけ車が進むのかを調べます。



まず、車の先頭が②の位置に来るまで輪ゴムをのばした場合、車が進んだきよりを5回調べ、表1のようにまとめました。表1をもとに、きよりの平均を考えます。

表1 ②の位置に来るまで輪ゴムをのばした場合の記録

回数	車が進んだきより
1	2 m 73 cm
2	80 cm
3	2 m 87 cm
4	2 m 69 cm
5	2 m 91 cm



2回目は、車が大きく曲がってしまい、記録を正しくはかることができませんでした。そのため、2回目の記録を除いて平均を求めます。

■ 正答

1	B③	正答率	無答率
---	----	-----	-----

● 誤答例

- 4と解答 (17.1%)
- 3と解答 (9.0%)
- 2と解答 (4.4%)

(1)	宮崎	61.3%	0.9%
	全国	67.9%	1.1%

(1) 2回目の記録を除いて、4回分の記録を使って車が進んだきよりの平均が何cmになるかを求めます。下の1から4までの中のもの、どの式で求めることができますか。1つ選んで、その番号を書きましょう。

- $(273 + 287 + 269 + 291) \div 4$
- $(273 + 80 + 287 + 269 + 291) \div 4$
- $(273 + 287 + 269 + 291) \div 5$
- $(273 + 80 + 287 + 269 + 291) \div 5$

【学習指導に当たって】

- 測定値の平均を求める式の意味を理解できるようにする。
- 平均を求めるために、場面や状況に応じた数理的な処理ができるようにする。

- 測定値の平均を求める際には、形式的に計算するだけでなく、具体的な場面において、測定値の平均を求める式の意味を理解できるようにすることが大切であり、測定値の平均を求める式と日常生活の場面を関連付けて解釈したり、平均を求める過程をグラフなどを用いて視覚的に捉えたりすることで、測定値の平均を求める式の意味を確認することが考えられる。
- 平均を求める際には、場面や状況に応じて数理的な処理の仕方を吟味することが大切である。設問(1)は、明らかに飛び離れていると判断できる数値が表の中にあつた場合に、適切に平均を求める方法を考える問題であり、表の中の飛び離れた数値を除いて処理することができるかどうかを求めている。

指導に当たっては、例えば、通学路を歩くのにかかる時間を調べる場面で、下のように、飛び離れた数値がある場合にその数値を除いて平均を求め、その数値を除外した理由を説明する活動が考えられる。

通学路を歩くのにかかった時間

日	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
時間(分)	15	14	30	16	15

通学路を歩くのにかかった時間の平均

$$(15+14+16+15) \div 4 = 15$$

3日目は、道路が工事中で、いつもの通学路を通ることができなかったため、除外する。

平成29年度 全国学力・学習状況調査
宮崎県の調査結果
【7 中学校の具体的な問題例】

学校政策課

【中学校国語】

○ 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む問題については良好な結果である。

A問題 9 二 「漢字を読む」

二 次の1から3までの文中の——線の漢字の正しい読みをひらがなでいねいに書きなさい。

1 覚悟を決める。
2 鮮やかな色合い。
3 水が垂れる。

■正答

- 1 かくご
2 あざ
3 た



9 二		正答率	無答率
1	宮崎	99.1%	0.5%
	全国	98.7%	0.9%
2	宮崎	95.0%	0.4%
	全国	94.5%	0.8%
3	宮崎	95.4%	0.6%
	全国	94.3%	1.1%

【学習指導に当たって】

漢字を読むことの指導においては、漢字一字一字の音訓を理解し、語句として、話や文章の中において文脈に即して意味や用法を理解しながら読むように指導することが大切である。

また、字形と音訓、意味と用法、語の成り立ち、熟語の構成などについて必要に応じて指導し、例えば、漢字の構成要素である「へん」や「つくり」などに注目して、読みや意味を類推することができるように指導することも大切である。

(平成29年度 報告書より一部抜粋)

● 事象や行為などを表す多様な語句について理解することについては課題がある。

A問題 9 五 「語句の使い分け」

【話し合いの記録】

活動内容案	結果
1 回標語やポスターの募集と掲示を行う。	可決
2 回登校時間に校門の前であいさつや呼びかけを行う。	<input type="text"/>
3 回下校時間に校門の前であいさつや呼びかけを行う。	否決

五次は、校内でのあいさつを活発にするための取り組み「話し合いの記録」です。「活動内容案」の「2」については、今回は結論が出なかったため、あとでもう一度話し合うことになりました。
□に当てはまる言葉を、漢字三字以内で書きなさい。

■正答

再検討・保留

9 五		正答率	無答率
五	宮崎	37.0%	8.7%
	全国	35.8%	13.1%

授業の中で日常的に辞典をひくなどして、自分が使う語句について調べる習慣をつけることも大切です。



●誤答例

「再可決」「考案中」「可決」「否決」

言葉として知ってはいても、場面や状況に応じて適切に使い分けができていない。

学習指導に当たって

多様な語句・語彙指導の工夫

事象や行為などを表す多様な語句を、生活の中の様々な場面や状況に応じて、適切に使うことができるようにする必要がある。例えば、本設問のように学校生活の中での話し合いなど具体的な場面を取り上げ、その場の状況に応じた適切な言葉について考えたり、調べたりするなどの学習活動が有効である。その際、漢語などを用いて短い言葉で表す方がよいのか、文や文章を用いて丁寧に表す方がよいのかなど、目的や場面を踏まえて考えさせることが大切である。

(平成29年度全国学力・学習状況調査 報告書 中学校国語より)

● 表現の仕方についてとらえ、自分の考えを書くことには課題がある。

B問題 1 三

【本の紹介カード】

三 青山さんは、学校の国語で四書五經の生徒が作った『本の紹介カード』を見て、実際にその本を読んでみました。次は、そのと
きに青山さんが見た『本の紹介カード』と、青山さんが読んだ『本の紹介カード』の『心に残った一文』と『感想』についての内容を参考に
あとの『読書の記録』に書いていきます。あなたなら『読書の記録』の『心に残った一文』と『感想』についての内容を参考に
すか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二枚紙で行間書きを加えたり行間書きを加えたりしてもかまいません。

条件1 「心に残った一文」は、『本の紹介カード』の『心に残った一文』を読み、感じたことを考えたことと
条件2 「感想」は、条件1で取り上げた表現について、『本の紹介カード』の『心に残った一文』の『感想』についての内容を参考に
感じたことと考えたことを具体的に書くこと。

※ 次のページの枠は、丁寧に使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書くこと。

自分らしさって
何だろう……

古道具屋を営む家に生まれた仲のよい
三姉妹。でも、麻子(私)は、自由奔放な
妹の七葉との違いをいつも感じています。
そのような中で少しずつ自分らしさを
見付けていく麻子の
成長の物語です。

スコレ
No.4
宮下 奈都

比喻を
用いた表現も
素敵です!

	1	正答率	無答率
三	宮崎	41.9%	11.5%
	全国	41.4%	14.3%

この問題を解くためには、

- ① 文章中のどの表現が「比喻」であるかを理解する
- ② 選んだ文について「誰の」「どのような様子」という条件に沿って、書くことができる
- ③ 選んだ文について自分の考えをもつ

という力が必要です。

■ 正答例

【心に残った一文】
興奮のあまり黒い目が濡れたように光って怖いくらいだった。

【感想】
七葉が自分の思いつきに興奮して目を輝かせている様子を表していて、七葉がお皿を水に濡らすことに夢中になっている姿が想像できます。

学習指導に当たって

本を読んで感じたことや考えたことを交流し、ものの見方や考え方を広げる

文学的な文章を読んで、感じたことや考えたことなどについて交流することは、自分のものの見方や考え方を広げたり、読書の楽しさを味わったりする上で重要である。例えば、印象に残った場面や描写を取り上げ、なぜその場面や描写が印象に残ったのかを具体的に説明する学習活動が有効である。その際、取り上げた場面や描写がどのような内容であるのかを明確にしたり、感じたことや考えたことを具体的に説明したりすることができるよう指導する必要がある。さらに、比喻や反復などの表現の技法についての知識を生かすなど、これまでの学習を踏まえた指導をすることも大切である。

また、新聞やインターネットの書評、本のポップなどを取り上げ、そこに書かれたものの見方や考え方と自分のものの見方や考え方とを対比させて新しい考え方を知ったり、自分の考えを再構築したりする学習活動も効果的である。



- ① 比喻や反復などの表現技法について学習した後に、教科書などの具体的な文章から表現技法が使われているものを探すなど、学んだ知識と実際の文章とを結びつける活動を取り入れる。
- ② 自分の意見をまとめる際に、「条件」を入れた文章を書く場面を設けるとともに、さらに「添削」することで、本当に「条件」が入っているのか確認させる。
※ 相互評価とともに、教師の添削も行うことで、生徒に評価の視点をもたせる。
- ③ 多様な言語活動を設定し、自分の考えや思いを表現したり、そのことを交流し合う機会をもたせる。

【中学校数学】

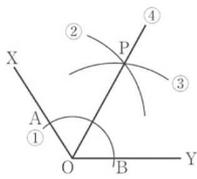
● 作図方法と図形の対称性との関連を理解しているかどうかをみる問題には課題がある。

A問題 4

(1) 健太さんは $\angle XOY$ の二等分線を、次の方法で作図しました。

健太さんの作図の方法

- ① 点Oを中心として、適当な半径の円をかき、辺OX、OYとの交点をそれぞれ点A、Bとする。
- ② ①でかいた円の半径より長い半径で、点Aを中心として円をかく。
- ③ 点Bを中心として、②でかいた円の半径と等しい半径の円をかき、②の円との交点の1つを点Pとする。
- ④ 直線OPをひく。



この方法で $\angle XOY$ の二等分線が作図できるのは、上の図で点A、O、B、Pの順に結んでできる四角形AOBPがある性質をもつ図形だからです。その図形が、下のアからオまでの中にあります。正しいものを1つ選びなさい。

- ア 直線OPを対称の軸とする線対称な図形
- イ 直線OXを対称の軸とする線対称な図形
- ウ 点Aと点Bを通る直線を対称の軸とする線対称な図形
- エ 点Oを対称の中心とする点対称な図形
- オ 点Aと点Bを通る直線と直線OPの交点を対称の中心とする点対称な図形

■ 正答

(1) ア

4		正答率	無答率
(2)	宮崎	62.6%	0.6%
	全国	67.4%	1.0%

- 誤答例
- ・ イ と解答 (4.5%)
 - ・ ウ と解答 (7.7%)
 - ・ エ と解答 (8.8%)
 - ・ オ と解答 (10.1%)

【誤答への対応】
オと解答した生徒の中には、四角形AOBPの対角線とその交点に着目はしているものの、健太さんの作図の方法によってできる点や線分の特徴を基に四角形AOBPの対称性を捉えることができなかつた生徒もいます。

【学習指導に当たって】
見直しをもって作図したり、作図の方法を見直したりすることができるようにする。



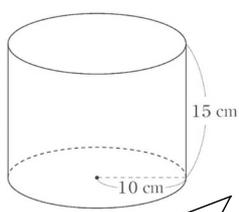
基本的な作図において、見直しをもって作図したり、作図の方法を見直したりすることができるようにするために、基本的な作図の基となっている図形の対称性を捉える場面を設定することが考えられる。

設問(1)を使って授業を行う際には、作図の方法に基づいて角の二等分線を作図した後、作図の方法を振り返る場面を設定することが考えられる。例えば、健太さんの作図の方法では、直線OPを対称軸とする線対称な図形が作図されたことと捉えることができるようにすることが大切である。その際、四角形AOBPにおいて、健太さんの作図の方法①から $OA=OB$ 、②、③から、 $AP=BP$ になることを確認することも大切である。また、他の基本的な作図においても、図形の対称性を基にしていることを見いだし活動を取り入れることが考えられる。

● 円柱の体積を求めることができるかどうかをみる問題には課題がある。

A問題 5

(4) 底面の半径が10cm、高さが15cmの円柱の体積を求めなさい。
ただし、円周率は π とします。



■ 正答

(1) 1500π

【誤答への対応①】
それ以外の解答した生徒の中には、底面である円の面積を、(半径)×(半径)で求めたと考えられる「1500」という解答があります。

⑥ (1)	正答率	無答率
宮崎	44.4%	8.3%
全国	51.8%	9.7%

- 誤答例
- ・ 300π (5.4%)
 - ・ 150π (6.9%)
 - ・ 500π (1.7%)
 - ・ 100π (0.5%)
 - ・ それ以外 (23.1%)

【誤答への対応②】学習時(第1学年)から1年が経過しています。

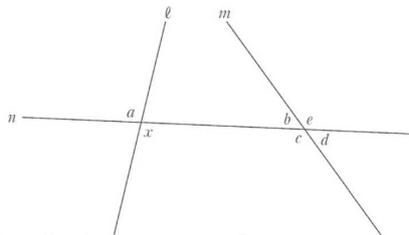
【学習指導に当たって】
角柱、円柱の体積の求め方を理解し、体積を求めることができるようにする。

角柱や円柱の体積を求めることができるようにするために、柱体の体積を求める公式について、底面の図形が高さの分だけ平行に移動することによって構成される立体とみることと関連させて理解を深める場面を設定することが考えられる。
設問(4)を使って授業を行う際には、(底面積)×(高さ)という柱体の体積を求める公式を見直し、この円柱を、半径10cmの円を15cmだけ一定の方向に平行に移動することによって構成される立体とみることを確認する場面を設定することが大切である。その上で、公式を適切に用いて体積を求めることができるようにすることが考えられる。

● 錯角の意味を理解しているかどうかをみる問題には課題がある。

A 問題 6

(1) 次の図で、2つの直線 ℓ 、 m に1つの直線 n が交わっています。このとき、 $\angle x$ の錯角について、下のアからカまでのの中から正しいものを1つ選びなさい。



■ 正答

(1) イ

- ア $\angle x$ の錯角は、 $\angle a$ である。
- イ $\angle x$ の錯角は、 $\angle b$ である。
- ウ $\angle x$ の錯角は、 $\angle c$ である。
- エ $\angle x$ の錯角は、 $\angle d$ である。
- オ $\angle x$ の錯角は、 $\angle e$ である。
- カ $\angle x$ の錯角は、 $\angle a$ から $\angle e$ までの中にはない。

6 (1)	正答率	無答率
宮崎	35.2%	0.3%
全国	43.1%	0.6%

● 誤答例

- ・ ア (12.2%)
- ・ オ (6.4%)
- ・ カ (32.8%)

【学習指導に当たって】

2直線に1直線が交わってできる角の位置関係について理解できるようにする。

2直線に1直線が交わってできる角の位置関係について理解できるようにするために、2直線に1直線が交わってできる8つの角で、互いに同位角や錯角の関係になっている角を見いだす活動を取り入れることが考えられる。

例えば、平行でない2直線に1直線が交わる場合にできる8つの角と、平行な2直線に1直線が交わる場合にできる8つの角について、それぞれ位置関係を捉える活動を取り入れることが大切である。その上で、それぞれの角の大きさを測定し、同位角や錯角が等しくなるのは2直線が平行な場合だけであることを、実感を伴って理解できるようにすることが大切である。

● 与えられた式から、 a の変域に対応する b の変域を求めることができるかどうかをみる問題には課題がある。

B 問題 3

(3) 康平さんは調べたことをきっかけに、水を大切にしようと思いました。そこで、家でできる節水の方法を調べて表にまとめ、それをもとに毎日の取り組みを決めました。



節水の方法と節水量

節水の方法	節水量
シャワーを流しっぱなしにしている時間を、短くする。	1分あたり12L
歯磨きで、口をゆすぐときに、水を流しっぱなしにせずに、コップに水をためる。	1回あたり5L

康平さんの取り組み

- シャワーを流しっぱなしにしている時間を、3分間から5分間くらい短くする。
- 1日2回の歯磨きで、2回ともコップに水をためる。

シャワーを流しっぱなしにしている時間を a 分間短くしたときの、1日あたりの節水量を b L とするとき、康平さんの取り組みによる1日あたりの節水量は、次の式で表すことができます。

$$b = 12a + 5 \times 2$$

康平さんの取り組みを行うとしたら、1日あたりの節水量がどのくらいになるかを、上の式をもとに考えます。 a の変域を $3 \leq a \leq 5$ とするとき、 b の変域を求めなさい。

【学習指導に当たって】

数学的な結果を事象に即して解釈できるようにする。

数学的な結果を事象に即して解釈できるようにするために、問題解決において用いた式を事象に即して捉え直す活動を取り入れることが考えられる。

設問(3)を使って授業を行う際には、与えられた情報を基に1日あたりの節水量の関係を式に表し、式の $12a$ の値が「シャワーを流しっぱなしにしている時間を a 分間短くしたときの節水量」、 5×2 の値が「1日2回の歯磨きでコップに水を貯めて歯磨きしたときの節水量」を表すことを確認する場面を設定することが大切である。

■ 正答

(1) $46 \leq b \leq 70$

3	正答率	無答率
(3) 宮崎	34.6%	15.0%
全国	43.2%	17.5%

● 誤答例

- ・ $3 \leq b \leq 5$ (1.5%)
- ・ $36 \leq b \leq 60$ (2.5%)
- ・ $46 \leq b \leq \square$ (1.1%)
- ・ $\square \leq b \leq 70$ (2.1%)
- ・ 上記以外の解答 (31.2%)

【誤答への対応①】

「上記以外の解答」の中には、節水の方法と節水量における歯磨き1回の節水量5Lと、シャワーを流しっぱなしにしている時間を1分間短くしたときの節水量12Lを表したとみられる、 $5 \leq b \leq 12$ という解答があります。また、県、全国ともに無解答率が高い傾向にあります。

【誤答への対応②】

問題文が長く、生徒にとって取り組みにくい問題だと思われそうですが、よく見てみると、(3) は一次関数の変域を求めている問題です。このように、B問題では、問われている内容と既習事項と結びつけ、考える力が必要となる問題もあります。



平成29年度 全国学力・学習状況調査

宮崎県の調査結果

【8 児童生徒の生活習慣に関する概要】

学校政策課

◆ 児童生徒質問紙における「生活習慣」に関する主な項目の全国との比較

児童生徒質問紙における「生活習慣」に関する項目（「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」を肯定的な回答）について、本県と全国の状況を比較し、児童生徒の割合が全国平均を上回る主な質問を中心に示しています。

内 容	小学校			中学校		
	宮崎	全国	差	宮崎	全国	差
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	92.7	91.2	1.5	94.3	92.4	1.9
朝食を毎日食べていますか	95.8	95.4	0.4	95.0	93.2	1.8
将来の夢や目標を持っていますか	89.9	85.9	4.0	75.8	70.5	5.3
普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか（1時間以下・しない）	52.6	44.4	8.2	49.6	40.9	8.7
普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（1時間以上）	74.5	64.4	10.1	79.3	69.6	9.7
家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか	79.8	78.1	1.7	77.1	74.3	2.8
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	70.5	64.5	6.0	55.1	51.5	3.6
今住んでいる地域の行事に参加していますか	68.2	62.6	5.6	44.3	42.1	2.2
地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか	67.9	63.9	4.0	66.1	59.2	6.9
学校のきまりを守っていますか	93.9	92.6	1.3	95.8	95.2	0.6
新聞を読んでいますか（週に1回以上）	19.7	21.0	-1.3	12.1	14.9	-2.8
読書は好きですか	75.8	74.3	1.5	67.3	69.9	-2.9

◆ 児童質問紙の結果概要（全国平均との比較）

生活習慣については、「毎日、同じくらいの時刻に起きている」「朝食を毎日食べている」「1日当たり1時間以上の勉強をする」など、ほぼ全ての項目で全国平均を上回っており、望ましい生活習慣を身に付けている割合が高い状況にある。

一方、「週に1回以上、新聞を読んでいる」と回答している小・中学生の割合や、「読書が好きである」と回答している中学生の割合が、全国平均と比べて低い状況にある。